

# 一からわかる再配置



公共施設の再配置に関連する基本的な情報をお知らせします。

## 沼代児童館の移譲

公共施設再配置計画のシンボル事業の一つに、「小規模地域施設の移譲と開放」があります。これは、老人いこいの家や児童館などの小規模で地域に密着した施設の建物を自治会等に無償で譲渡し、地域の特色にあった運営を行うとともに、地域との協働により、従前の公共施設としての役割の一部を維持していこうとするものです。<sup>1</sup>



この事業の一環として、6月議会において「沼代児童館」の「沼代自治会連合会」への無償譲渡に関連する議案が可決され、9月1日に所有権の移転が完了しましたので、この事業の概要についてお知らせします。

## 頭が下がる思い

今回移譲を受けた「沼代自治会連合会」は、6つの単位自治会の連合組織であり、活動拠点として「沼代会館」という建物を所有していました。しかし、木造平屋建で狭く、しかも築70年以上が経過していたことから、連合会では建替えを計画していました。しかし、その敷地も借地であったことから、今よりも大きな自治会館を建設するためには、適地を探すところから始める必要があります。計画はなかなか前に進みませんでした。これに対して、「沼代児童館」は、平成11年に建設された延べ床面積198㎡の木造2階建の施設です。築18年が経過していますが、この先、まだまだ自治会館としても使うことができます。そこで、シンボル事業として児童館の地域への移譲が掲げられたことを知った連合会は、「沼代児童館」の移譲を受けることに名乗りを上げることとなり、庁内調整に時間を要しましたが、ようやく実現の運びとなりました。

この事業の本市におけるメリットの一つは、この建物や児童館機能の維持に当たってのライフサイクルコストの縮減にあります。

右の表をご覧ください。今後20年間におけるライフサイクルコストを試算したものです。移譲しなければ8,480万円、移譲した場合は、5,610万円となり、本市の負担は2,870万円、年平均で140万円以上低くなる見込みです。

費用区分		移譲した場合	移譲しない場合
経常的な費用	人件費・光熱水費	215万円	269万円
	役務費・委託料等	10万円	20万円
	20年計 (1年計)	4,500万円 (225万円)	5,780万円 (289万円)
臨時的な費用	移譲に伴う改修等	300万円	—
	自治会館建設補助	—	2,700万円
	自治会館増築補助	810万円	—
合計		5,610万円	8,480万円

<sup>1</sup> 新設する自治会館について、補助金を上乗せすることにより「開放型自治会館」として位置付け、自治会員以外のサークル活動等にも開放し、公共施設の持つ貸館の役割の一部を担っていただく事業もこのシンボル事業には含まれています。

そして、地域にとっても、本市にとっても大きなメリットになることがあります。それは、移譲後の施設の利用方法にあります。平成 28 年 4 月、このシンボル事業の第一号として「鈴張町自治会」に移譲された「老人いこいの家すずはり荘」は、もともとは、地域の成人を中心に利用されていた施設です。しかも、自治会を中心として結成された運営委員会による指定管理が行われていました。したがって、移譲後も従前と同様の利用を続けることは容易です。

しかし、年間 9,000 人以上(H27)の子どもたちが遊びに来る児童館となればわけが違います。子どもたちの利用に係る労力を連合会にお願いするとなれば、大きな負担が生じます。また、事故等に対する責任の問題も心配になります。そこで、連合会との協議の結果、次表のとおり役割分担を行うことにしました。

	午前	午後	夜間
2 F	沼代自治会連合会 専用スペース (連合会事務所・会合・サロン活動等に使用)		
1 F	コミュニティ保育 (火・金)	児童館機能	一般開放等
	児童館機能 (土・日)		
	一般開放等 (月・水・木)	一般開放等 (児童館休館日)	
	自治会活動	自治会活動	

子どもたちが自由利用できる場所を 1 階に限定し、平日は午後のみ、土日は終日市がお借りして児童厚生員を派遣し、子どもたちが自由利用できる児童館の役割を維持していきます。そして、それ以外の時間と場所は、連合会が主体となって運営をしていきます。児童福祉法に基づく児童館であった時は、夜間の自治会の会合等にお貸しすることはあっても、主には児童館機能（コミュニティ保育での利用を含む。）しかありませんでした。

しかし、このように連合会との協働による役割分担を行ったことにより、公共施設の機能も維持しながら、多機能で多用途な、地域のコミュニティ施設としての性格がより強い施設への転換が図られることとなりました。さらには、今後 1 階のホールについては、連合会による増築が計画されていることから、増築後、子どもたちが自由利用できる遊びのスペースも広がる予定です。

公共施設再配置計画では、残念ながら児童館を単独の施設として更新していくことは予定していません。しかし、そのことに理解を示し、地域を良くしていくためには、税に頼るばかりではなく地域自身が汗をかく必要があると、この移譲計画を進めてきた連合会の役員たちは、みな 70 歳以上だと思います。はたして、自分が同年代になった時、これだけ地域のために頑張るといえることができるでしょうか。役員の皆さまには、本当に頭が下がる思いです。地域の中には、熱心な役員たちが引退した後のことを心配する声もあったようです。しかし、先人たちが苦勞して築き上げたこの地域コミュニティの拠点は、きっと後世にも大切に引き継がれていくものと信じています。